

笑顔かがやく 希望のまち むつ
伝統の承継

むつの祭り

厳冬に耐えながら暮らす北国の祭りは熱い。北前船が運んだ上方文化を思わせる各地区の祭りは、伝統と絆を重んじ、長老たちから若者へ、若者から子どもたちへと引き継がれていく。



【田名部神社例大祭】

東北の夏祭りのフィナーレを飾るのが、下北最大規模の田名部神社例大祭（田名部まつり）です。毎年8月18日から20日の3日間にわたり、むつ市内に繰り出す豪華絢爛な5台の山車。京都祇園祭の流れを汲む哀調を帯びた祇園囃子。祭りの最終日には5台の山車が一堂に会して、来年の再会を誓う「五車別れ」でクライマックスを迎えます。また、田名部まつり期間中には祭りに華を添える「田名部おしまこ」の流し踊り、市内の小中学校・企業や各種団体による「みこし祭り」も見応え十分です。



【大湊ネブタ祭り】



むつ市大湊地区で開催される「大湊ネブタ」は、主に地域住民の手によって制作・運行されます。人形ネブタが中心となり、各町内会が一丸となって大湊地区を練り歩く大迫力の祭りとなっています。

【川内八幡宮例大祭】



川内八幡宮例大祭は、正徳元年（1711年）に八幡宮の神輿に山車がお供したという記録から300年を超える歴史を持つ、江戸時代の海運文化の象徴でもあります。太神楽を先頭に、八幡宮の御神体を納めた神輿や稚児行列、各町内の5台の山車が豪快優美に、川内地区に活力を与えてくれます。

【大畑八幡宮例大祭】



大畑の市民から八幡様として親しまれる大畑八幡宮例大祭は、毎年9月14日からの3日間開催。この3日間のうち、14日が宵宮祭、15・16日は、神輿、山車、神楽、能舞などの行列が大畑地区を巡回し、賑やかな雰囲気です。

【脇野沢八幡宮例大祭】



脇野沢の八幡宮例大祭は、毎年8月15日からの3日間開催。二百数十年前に北前船で活躍した商人たちによって始められ、神輿渡御による祭礼となりました。現在では海運による経済的発展でもたらされた山車・神楽などが加わり、脇野沢を代表する夏祭りとして親しまれています。